

国

語

注 意

- 1、問題は【一】から【三】まで、ページ数は1ページから11ページまであります。
- 2、試験時間は50分です。
- 3、解答は解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 4、字数制限のある問題では、句読点やかっこ、その他の記号も一字に数えます。
- 5、答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 6、問題文には、設問の都合で、もとの文の省略や、文字・送りがなを改めたところがあります。

受験 番号		氏名	
----------	--	----	--

【一】 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑮の各文の傍線部のカタカナを漢字で書き、傍線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- | | | |
|--------------------|------------------|----------------|
| ① 時計をヒョウジュン時に合わせる。 | ② 母の言葉をネットウにおく。 | ③ 夢をジツゲンさせる。 |
| ④ 体をコテイする。 | ⑤ 誕生日会の招待をジタイした。 | ⑥ 厳しいクンレンを重ねる。 |
| ⑦ 子どもの世話を祖母にマカせる。 | ⑧ スコやかな成長を願う。 | ⑨ ゴミをヒロウ。 |
| ⑩ 絵画を額に入れる。 | ⑪ 建物の構造を考える。 | ⑫ 四月に転居する。 |
| ⑬ 力を費やす。 | ⑭ 運命に身を委ねる。 | ⑮ ボランティアの人を労る。 |

問二 次の①～⑤の各文の傍線部には擬音語か擬態語が使われている。それぞれの傍線部の空欄（ ）に適切なひらがな一字を入れて文を完成させなさい。

- ① 鼻の穴の中がかゆくて（ ）ず（ ）ずする。
- ② 愛する人を突然の事故で失い、（ ）ら（ ）らと涙を流す。
- ③ 試験結果が良いかどうか不安で胸が（ ）き（ ）きする。
- ④ 彼はき（ ）き（ ）とした動きで素早く仕事をこなした。
- ⑤ 雪が（ ）ん（ ）んと降る。

問三 次の①～⑤の慣用表現についての問いに、それぞれ漢字一字で答えなさい。

- ① 彼はすぐになんでも言うてしまうが、何が軽いのか。
- ② 彼は恥を恥とも思わず大変ずうずうしいが、何の皮が厚いのか。
- ③ 仲の良い人どうしの間、柄を邪魔するのために、何を差すのか。
- ④ 人に対して尊敬の思いが生じると、何が下がるのか。
- ⑤ あれこれ迷っていても、決断するときには、何を決めるのか。

【二】 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

マラリアの感染が頻繁に起きていたアメリカのミシシッピ川周辺や西アフリカのリベリアなどの人々の間では、マラリアは怖い病気どころか、そもそも病気としてさえ捉えられていなかったそうです。これらの地域では誰もがかかるありふれたものだったので、病気というよりも X のようなものとして位置づけられていたようです。

マラリアの感染は、私がマラリア対策や研究などでたびたび訪れてきた南太平洋の島国ヴァヌアツでも、頻繁に起きてきました。ところが、それにもかかわらず、現地の人々の使っている言語のなかには、① マラリアに相当する*1語彙がないという興味深い例がみられます。マラリアの症状である発熱や頭痛、悪寒などを指す語彙はあるのですが、病名を表す語彙がないのです。どうしてなのか定かではありませんが、A 紹介したアメリカや西アフリカなどの例のように、多くの人がかかるので病気と捉えられず、B 病名もできなかったのかもしれない。

このように、病気の捉え方は個人によってだけでなく、社会によっても違う場合があります。これに対して、医学では、むしろそうした*2差異を超えた共通のことがらに注目します。マラリアに関して言うと、それにかかったすべての人に共通して認められること、たとえば*3病原体であるマラリア原虫や、マラリア原虫がハマダラカという蚊によって人から人へと*4媒介されてゆく感染メカニズムなどに注目するわけです。そして、それらの知識に基づいて、各種の予防法や治療薬の開発などが行われてきました。これは②医学がもたらした大きな成果と言えるでしょう。

ただし、医学の病気の捉え方は、病気にかかっている当事者の捉え方と重なっている場合もある反面、異なっていることもあります。先に紹介した、マラリアを病気とみなさず、ちょっとした不調などと位置づけていた社会の例が、まさにそれにあたります。また、別にマラリアでなくとも、「検査では異常がみつからなかったのに、どうも体調が悪い」とか、逆に「検査で異常がみつかったけど、自覚症状もなくピンピンしている」といった例は、それほど珍しいことではないでしょう。いずれも個人の病気の捉え方と病院での検査などに基づく捉え方が異なる場合です。

私が専門としている文化人類学では、以上のような個人や社会による病気の捉え方の違い、あるいは個人や社会の捉え方と医学の捉え方の違いに注目します。そして、医学的に捉えた場合の病気を「疾病」、個人や社会からみた場合の病気を「病い」と呼び、区別しています。そうすることで、医学的な捉え方とは異なる、個人や社会による病気の多様な捉え方を、たんに間違っているものや劣っているものなどとして評価するのではなく、それ自体として尊重しようとするとともに、当事者である個人や社会の側からみた病気のあり方や位置づけなどを深く理解しようとするのです。

子どものいのち（ひいてはすべての人のいのち）を守るために、病気や障がいなどの問題と向き合うときに必要なことは何でしょうか。さまざまなことがあるでしょう。しかし、とりわけ欠かせないものの一つに、次のようなことがあると思います。それは、いのちの担い手である一人ひとりの子どもの見方や考え方を尊重し、そのニーズ（求めていること）などを当事者の子どもの目線に寄り添って理解しようとすることです。

当事者の子どもになりきれない以上、ほかの人がその子どものことを百パーセント理解することなどおそらくできないでしょう。

けれども、子どものいのちを守ろうとして行われていることが、当の子どもからみた場合、守ろうとする側の価値観や考え方などの押しつけになってしまっていないともかぎりません。子どもの側にとって「小さな親切、大きなお世話」になってしまっているような事態です。言葉で意思などを確認することの難しい赤ちゃんや小さな子ども、言語コミュニケーションの面で障がいを抱えた子どもの場合、そうした事態が起きる可能性はより大きくなるかもしれません。

先に文化人類学では、病気を「疾病」と「病い」に分けて位置づけていることに触れました。それとの関連で言えば、子どもの病気を「疾病」の面からだけでなく、「病い」の面からも理解しようとする必要だと言えます。つまり、当事者である個々の子どもからみた病気のあり方にも十分注意を払う必要があるということです。これは子どもの目線に寄り添って病気と向き合うことと同じです。そうすることで、子どものニーズなどを適切に理解するための道が自ずと拓けてくるはずで

（白川千尋「病気と向き合う」）

注 *1 語彙……ここでは「言葉」のこと。

*2 差異……二つ以上のものを比べたときの違いや隔たり。

*3 病原体……病気を起こすものになる生物。

*4 媒介……両方の間に入って取り持つこと。なかだち。

問一 空欄 X に入る言葉を、問題文中より八字で抜き出して答えなさい。

問二 空欄

A

・

B

 に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢ア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはならない。

ア すぐに イ 次第に ウ 先に エ 仮に オ そのために

問三 傍線部①「マラリアに相当する語彙がない」とあるが、その理由として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の地域に比べて、この地域では使われている語彙の総数が圧倒的に少なかったから。
イ 多くの人がこの地域ではマラリアにかかり、取り立てて気にするほど珍しいものではなかったから。
ウ 個人、社会、医学の三つの視点がすべて重ならなければ、語彙として成り立たないから。
エ この地域の人々はマラリアの症状に対して無自覚で、体に異変を感じることがなかったから。

問四 傍線部②「医学がもたらした大きな成果」とあるが、医学による「成果」を得るための方法として、どうする必要があると述べているか。それを説明した次の文の（ ）に入る言葉を十五字以上二十字以内で答え、文を完成させなさい。

（十五字以上二十字以内）などを明らかにすることが必要。

問五 筆者は子どもの病気などに関わる際に、どうすることが大切だと述べているか。それを説明した次の文の（ ）に入る言葉を五十字以上六十字以内で答え、文を完成させなさい。

（五十字以上六十字以内）が大切である。

問六 問題文中で述べている「文化人類学」について説明した内容として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文化人類学は、多様な視点による捉え方を大切にするので、その分野以外の人の意見も価値あるものとして扱う。
イ 文化人類学は、同じことがらを集め、そこでの共通点をさまざまな視点で捉え、優劣をつけずに分析する。
ウ 文化人類学は、さまざまな分野のものの見方に注目するため、視点が多く、問題の本質が見えにくくなることもある。
エ 文化人類学は、マラリアについて、独自の視点で捉えることができるので、社会的にも高く評価されている。

【三】 次の文章は、筆者が二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災で被災した人々のもとを訪れ、心のケア（治療）を含めた医療支援を行った時のことについて述べたものである。これを読んで、後の各問に答えなさい。

少しずつ夜が明けていく。行方不明の家族を捜す人がやって来て、ご遺体の確認をし始める。その中に、女の子を二人連れた三〇代半ばぐらいのお母さんがいた。花束を二つ持っている。

「昨日、両親の遺体が見つかりました」

お悔やみを申し上げると、①その女性は悲しげながらも笑みを見せた。

「生きていてほしいと祈り続けていました。どこかの避難所で生きていると信じ続けていました。でも、どこにもいませんでした。おそらく亡くなっているのではないかと思っただけで、どんなことがあっても見つけてあげたいと捜し続けました。見つかった」

彼女は、ご遺体の上に花を手向け、手を合わせたあと、こんな話をしてくれた。

「父と母は一緒に見つかったんです。バラバラだったらさぞ怖かったでしょう、寂しかったでしょう。一緒によかった」

②見つかったよかった、一緒によかった、か。彼女の「よかった」は、さらに続いた。

「父はお酒が入ると、『死ぬときは、うちがいい』と、よく言っていました。両親の遺体が見つかったのは、自宅の瓦礫の下。父の願いどおりでした。少しでも、救いです」

すごいな、と思った。人間はこうやって、悲しみの中で少しでもいいことを探そうとする。家族にとっては納得できない理不尽で残酷な死をも、こうして救いとなる何かを見つけて受け入れ、乗り越えていこうとするのだ。

*1 南相馬の海岸沿いにある集落で出会った ③若いお父さんの話も忘れられない。

一〇メートルを超える大津波がやって来て、ほとんどの家が押し流された。彼の家も、一階は柱だけを残して流され、二階だけが残った。

もともと大切なものを失った。お父さんとお母さん、そして八歳の娘と三歳の息子。六人家族のうち、夫婦二人だけが生き残った。三歳の男の子が行方不明のまま。お父さんは必死で息子を捜した。毎日毎日、朝から夜遅くまで、月明かりの下でも捜し続けた。

彼の必死さを A かねて、たくさんの人が応援に入った。

でも、見つからなかった。この地区で津波にのまれた一三八人のうち、二〇人が見つかっていない。

吹く風に秋の気配が漂い始めた八月の末、*2有志が集まり、鎮魂の花火を上げることになった。消防団の班長でもある、あのお父さんが中心になり、一三八人の冥福を B 一つて一三八発の花火を打ち上げるといふ。少しでも支えになれば、と思

い、ぼくも応援させてもらうことにした。巡回診療の合間を縫って二回ほど、奥さんにも会いに行った。福島第一原発から三二キロのところにつくられた仮設住宅に入居していた。

奥さんのおなかは大きかった。新しい命が宿っていたのだ。

一二月、かつて家族六人が暮らしていた家の前で、お父さんと会った。

「春が来たら、もう一度ボランティアに呼びかけて息子さんの捜索を試みたらどうだろう。やるだけのことをやってみれば心の決着がつくかもしれない」と、ぼくは彼に語りかけた。

夏に一三八発の鎮魂の花火を上げ、秋には新しい命を授かった。もうそろそろ、過去ではなく未来へと目を向けられるのではないか。そんな期待があった。しかし、返ってきたのは予想だにしない言葉だった。

「心の決着なんてつかない。一生つかないと思う。親父とお袋を亡くしたこともつらかったが、その悲しみは時間が解決してくれ始めた。X と思えるようになりだしている。

でも、子どもは違う。なんで、おれは二人の子どもを助けてあげられなかったんだろう。その思いは一生背負っていかなければならない」

ただ、自分を責め続ける一方で、彼は瓦礫撤去の仕事^{てつきよ}を始めた。つらい過去を抱きしめながらも、未来に向けて踏み出す意欲をかき立てる心の灯をともしようとしていた。

「これからやって来る春は、この家の前を全部、菜の花で埋め尽くしてみたい。おれの子どもは歩けないけど、よその子どもがここに來て遊べるように、菜の花で迷路をつくってみたい」

幸い、この地域では*³放射線の線量があまり高くない。子どもたちに遊んでもらいたいな、と思った。

二〇世紀の*⁴精神医学の巨人、フロイトは言っている。困難な状況に陥^{おちい}ったとき立ち直るために大切なのは、愛する人がいることと働く場があること。どちらかがあれば人間は立ち直るきっかけをつかみやすい、と。

今回の震災では、愛する者だけでなく、家や仕事も同時に失ってしまった人が多い。傷は深い。そして広い。たくさんの人が、今も闇の中でもがいている。

しかし、それでも人間は立ち上がる、とぼくは信じている。何もかも失ってしまったと感じても、もう一度まわりに目を向けてみれば、まだまだたくさんの糸がつながっていることに気づく。そこから立ち直りが始まる。

生きている人とのヨコのつながりだけでなく、三八億年のタテの命のつながりの中でもぼくらは生きていることを忘れないようにしたい。そのうえで、今あるつながりを大切に、その人たちのために生きるということを少しずつ進めていくうちに、人間の内にある生きる力が引つ張り出されていくのではないか。

細くても切れることのない糸が、たくさんつながっていることが大事。納得できない多くの死を前に打ちひしがれている人たちが、一日も早く立ち直り、未来に向けて歩いていけるよう、^④ぼくも、その細い糸の一本であり続けたい。

(鎌田實『人間らしくヘンテコでいい』)

注 *¹南相馬……福島県北東部に位置する市。東日本大震災では大きな被害が出た。

*²有志……志^{しんざし}や関心を持っている人。

*³放射線の線量……数値が高いと人体に悪影響を及ぼす。

*⁴精神医学……医学の一分野。人間のさまざまな精神状態の研究や診断、予防、治療を行う。

問一 空欄 A・B に入る漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問二 傍線部①「その女性は悲しげながらも笑みを見せた」とあるが、この時の女性の様子を説明したものとして最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 両親の遺体が見つかったので、悲しみをこらえつつ、せめて子どもの前では母親として気丈^{きじょう}に振る舞おうとしている。

イ 両親の死が決定的となり、打ちひしがれてはいるが、遺体が見つかったことを心の慰め^{なぐさ}としている。

ウ 両親の死に対して、見ず知らずの人から温かい言葉をかけられ、つらい現実も前向きに捉えることができ感謝している。

エ 遺体が見つかり、両親の生存の望みは失われたが、せめて笑顔で両親をあの世に送ってあげようとしている。

問三 傍線部②「見つかってよかった、一緒によかった、か」とあるが、この時の筆者の様子を説明したものとして最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 両親が遺体で見つかるというつらい状況で、「よかった」と捉える前向きな考え方ができることに感心している。

イ 両親の死という悲しい現実を知ったのに、なぜ「よかった」と思えるのだろうか不思議に思っている。

ウ 両親の死が判明した悲しい状況で、「よかった」と言う冷淡な人間性に驚きあきれつつ不信任を抱いている。

エ 両親の遺体が見つかったことを「よかった」と思えるほど、悲惨な状況にいる女性に同情している。

問四 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 陽が昇っては沈むのを見るうちに、これでよかった
イ わずかだけど、俺はやれることをやった
ウ ちよつとずつ、ちよつとずつ、しかたがない
エ もしかしたら、二人を助けられたのではないか

問五 傍線部③「若いお父さん」とあるが、彼が負った最も深い心の傷について、三十字以上三十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部④「ぼくも、その細い糸の一本であり続けたい」とあるが、筆者はどのように生きたいと考えているか。五十字以上六十字以内で答えなさい。

問七 問題文の内容に合っているものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 深い心の傷を負った人でも、自ら見つけ出したものに全力で打ち込むことで、心の整理がつくものである。
イ 支援者は、被災者のつらい気持ちに寄り添うことができたとしても、思いもよらない被災者の心情に触れることがある。
ウ やりがいを感じる仕事を持っている人も、愛する家族を失ってしまったては生きる氣力を失ってしまう。
エ 現在のつらい苦しみは現在に限ったものではなく、太古から続く命の苦しみでもあることを忘れてはいけない。

